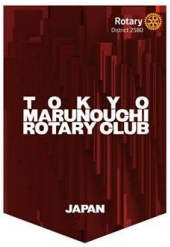
東京丸の内ロータリークラブ

2022 年 8 月 3 日 第 105 回 例会プログラム



「夢、人、希望をつなぐ」
心を育てる芸術の力
Connect dreams, people & hopes
The power of art that nurtures one's mind
2022-23 年度 クラブ会長 President
吉田秀樹 Hideki Yoshida

Rotary Club of Tokyo Marunouchi

TOKYO MARUNOUCHI ROTARY CLUB

"IMAGINE ROTARY"
2022-23 国際ロータリー会長
ジェニファー・ジョーンズ
2020-21 RI 第 2580 地区ガバナー
嶋村 文男

イマジン ロータリー

【式次第】12:00～13:30

1. 司会進行　光行 順子 幹事
2. 開会点鐘　吉田 秀樹 会長
3. ゲスト・ビジター紹介　寿原 裕美子 会員

本日のゲスト:
・卓話講師の澤田邦風名取
・ご同行の金原様(音響補助)
・市兵衛町ギャラリーオーナー、玉木みどり様
・有限会社だぶるず 漫画家 つだゆみ様
・代表、竹本治様
・(オンライン参加)プルデンシャル生命保険株式会社、東京第7支社シニア・ライフプランナー、伊藤孝 夫様
・本日のビジター:GINZA SIX・リテール・マネージメント株式会社代表取締役社長、近藤康彦様

米山奨学生 アディラ・ヤクフ様

4. ニコニコ報告　清水 ミッシェル 会員

吉田会長:ゲスト・ビジターの皆様、本日は丸の内ロータリークラブへお越し頂きありがとうございました。澤田邦風名取、きょうは津軽三味線の演奏を楽しいみにしております。

尾崎会員:ゲストの皆様、本日お越しくださいましてありがとうございます。
澤田様、本日の卓話と演奏を楽しみにしております。

古山会員:皆様、本日はお忙しい中お越しくださしましてありがとうございます。

5. 会長挨拶とロータリーと東京丸の内 R C の活動について　吉田 秀樹 会長

ゲスト、ビジターの皆様、本日はようこそ我が東京丸の内ロータリークラブ、オープン例会へお越しいただきまして誠にありがとうございます。感染対策防止を万全に行って参りたいと思いますので、皆様ご協力をお願いいいたします。

当クラブは設立から 5 年の若いクラブです。現役世代を中心に、各自専門知識や、そのネットワークを使って積極的に社会奉仕活動を行っております。小規模ながらの利点を生かした結束力と、あとまた女性が多いというクラブの特徴を生かして、母性的で強く優しい心を大切にした社会貢献活動を目指しております。

ゲストの皆様へのロータリークラブについて、簡単にお話をさせていただきますと、国際ロータリークラブ、これは世界に約 3 万 5000 クラブあり、会員約 120 万人の団体でございます。日本に約 2200 クラブ、会員約 8 万 5000 人です。そしてこれが多数の地域に分かれ、地区に分かれ我々東京丸の内はその中の第 2580 地区に所属しているクラブです。本日お越しくださいました、銀座ロータリーの近藤様は、第2750 地区からビジターとしてお越しいただいております。ありがとうございます。

活動は大きく 3 つです。例会、今日のようなゲストを迎える会もあります。それから奉仕活動、それと親睦です。例会は原則月 4 回とされていますが、東京丸の内ロータリークラブは月 2 回、各自の仕事面の負担を軽減するサポートをするような回数で行っております。ここで活動報告や親睦と卓話を行います。

そして、もし欠席してもメイクアップと言って、他のクラブで例会を出席することで原則例会の出席を満たすことができます。日本中に 2200 クラブありますから、どこにでも行けます。それともちろん世界中行けます。そこで新たな人と出会う機会に恵まれます。また同じ曜日、水曜日で行っている例会もあります。我がクラブは月 2 回の例会ですので、参加しやすい環境になっております。

そして卓話ですが、本日は澤田邦風名取をお呼びしておりますが、様々なプロセッショナルな方々を招いて、ミニ講演会のような形でクラブ会員も社会勉強ということを行っております。会員自身が自分の専門分野からの講演することもできます。ですから、それぞれ皆さんが経験されている事とか、職業、そういったことを卓話という形で奉仕活動

創立日: 2017 年 7 月 24 日
認証日: 2018 年 2 月 26 日
認証式: 2018 年 5 月 28 日
事務局: 東京千代田区丸の内 2-3-2 郵船ビル 1F
TEL:+81 3-5533-8846
E-mail: marunouchi-rc@outlook.jp(事務局:桑原奈知子)
URL: https://www.tokyomarunouchi-rc.com/

例会日: 第1・第3 水曜日
12 時 00 分 - 13 時 00 分
例会場: 東京千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館 B1F
センチュリーコート丸の内
(covid-19 の期間中はオンライン例会の可能性あり)
会 長: 吉田 秀樹 幹 事: 光行 順子

することもできます。

奉仕活動ですが、世界規模で行っているのはポリオ根絶運動です。これあと 2 カ国で、根絶するというところまで迫ってきております。ロータリークラブの一員でありますビルゲーツさん、ビルゲーツ財団が、ロータリーのポリオ活動に対して倍の寄付を行うというような活動を行い、本当に肝入りの奉仕活動となっております。それで、我が東京丸のロータリークラブでは、代表的な活動としましてモンゴルの日馬富士学園との繋がりとか、オーストラリアの山火事対策支援、それとコロナ禍におけるフェイスシールド政策支援、食料支援、それから WWF への参加し支援。それとコロナでの飲食マナーと題してショートフィルム製作、啓発活動で、こちらについては日経新聞でも紹介されました。

そして、シトラスリボンプロジェクト、私もここにつけていますが、コロナ禍で医療従事者への偏見をなくそうといった運動です。これは愛媛県からスタートしましたが、そういったことにも賛同しております。親睦会はコロナ禍で、なかなか実現できる時期ではないのですが、米山奨学生と交流の際などに有志で集まってささやかな会などを行ってきました。早くこのマスクがない生活に戻りたいと思っております。

我がクラブの基本方針理念ですが、注目されにくいところへの目を向けた奉仕活動です。大きく目立った事柄への支援のほかに、影に隠れて目立たない本当の意味での支援が必要なところへの奉仕活動。これに目を向けることは根本的な問題を解決していく糸口になると思っております。そして私が今期会長になりまして我がクラブのミッションとして立ち上げたスローガンは、「夢、人、希望を繋ぐ」です。そして、「心を育てる芸術の力」であります。私自身、現代美術作家、そしてフォトグラファーであり、ディスプレイデザインなどの装飾を手掛けるデザインのディレクターであります。私が考えるその芸術というのは単に、音楽や美術などの枠組みにとらわれるものではなく、人それぞれに宿っているもの、ということで考えております。芸術の本質というのは伝えることなので、心を育てる原動力になるということでこのスローガンを打ち立てました。

具体的な活動、今期の活動の目標としまして心の病への支援を推進してまいります。次回の卓話者でもありますHIKARI 地域活動団体の HIKARI 様。こちらは社会に出てから患った心の病を、社会復帰を後押ししている団体がありますので、そちらを支援していくような活動を行ってまいります。また、あの 2580 地区の中央活動として、環境問題が上げられていますが、こちらは創業、明治 23 年のリサイクル事業を営んでいらっしゃいます東京後楽ロータリークラブの戸部様のご協力打診しまして子供たちへの紙芝居で伝えるリサイクルのプロジェクトを発足させました。これはクラブ間で協力なし遂げるプロジェクトになるだろうと思っておりまして、成功を確信しております。このように、例えば木工クラフトであるとか紙芝居だとか、芸術の分野を使った活動がいかに大きく私たちの心を純粋にさせていくのかというのは、私たちはだんだん気付いてきております。そして、

本日、このゲストウエルカムデーにお招きしたのは、私の掲げたクラブミッションスローガン、これを逆にその神髄を教えて頂けるような津軽三味線の澤田邦風名取です。伝統の音色っていうのは、やっぱり心を揺さぶるものだと思います。感動という響きが、あの言葉ではなくて、心が語る音として、あの私たちの体に伝わってくると思います。まさにその心を癒すという根本的な感動、つまり生きる活動というものだと思うのですが、この物作りと、この場合、音を生み出すことですが、これが育って伝えて、そこには双方に喜びというものが、到達点が漏れなくやってくるものだと思っております。この喜びをもたらすこと、これが、私たちが目指す奉仕活動の神髄ではないかと思います。この後の名取の三味線の音色から、その心の話をしていただけると思いますので、皆さん楽しみにしてください。

6. 米山奨学金授与　　古山　真紀子 直前会長

アディラ　ヤクフ様に奨学金が授与された

7 月 27 日はアディラさんのお誕生日、花束が贈呈された。

アディラさん：
皆さん、こんにちは。私はロータリーの奨学生で、今、順天堂大学医学研究科で博士課程に在学しています。現在の研究論文を昨日完成しまして、指導先生に送りました。今から試験勉強だけ集中したいと思います。これから頑張りますのでよろしくお願いします。プレゼントをありがとうございます。

7. 会員自己紹介：

光行順子会員：幹事の光行順子と申します。私は現在、国際交流コーディネーターという肩書きで活動しております。それというのも私は父の転勤で、小学校はロンドンで、そして高校はオーストラリア、シドニーの聖心で学びました。帰国後、国際基督教大学教養学部で異文化コミュニケーションを専攻。その後、日本興業業銀行に入行、海外関連業務に携わっておりました。興銀で古山直前会長に幸運な巡り合わせをました。そして、結婚後は、主人の転勤でインドネシアに 4 年間滞在しておりました。そういうわけで、私は今まで海外と繋がりのある生活をしてきましたのでロータリークラブでは、その海外生活の経験を活かし国際交流、国際親善、奉仕に努めて行きたいと思っております。

清水ミッシェル会員：、ミッシェルという名前の通り、海外で人生の半分以上過ごしており、ハワイで生まれ育っていまして、何がしたいかというのはやはりボランティアです。アメリカではもう小学生、高校、小学生か高校生の間はもちろんボランティアするのですけども、大学生の頃にもう卒業の必須科目としてボランティアとていうことがありましたので、少しでもボランティアを日常的に思えていきたく参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

尾崎会員：こちらのクラブの発起人は嘉納先生と 2 人ですけれども、こちらのクラブを設立させていただきました。創立会長を務め、延べ 2 年間ほど、会長を務めております。現在は千代田グループを担当しております。

寿原会員：創立会長から声をかけていただいてで、たまたま学校の先輩であったということで入会いたしました。自分の仕事が活かせているのがわかりませんが、今まで会計を担当しております。

嘉納会員：丸の内という名前はおしゃれですので、ぜひ丸の内という名前に憧れる方は入会してください。

古山会員：通訳をやっております。そもそも何で入ろうかと思ったことのですけど、通訳をやっておりますと色々な海外のニュースに触れて、なかなか世界に平和が来ないなっていうことが分かりまして世界に平和が来ないなら、せめて周りから少し手を広げていきたいなと思ったのが、ローテリークラブに入ったきっかけでありました。
最初のうちは、なかなか月 2 回でもお出席が難しかったのですけれども、去年 1 年間、会長をやらせていただきまして、他のクラブに出かけたりとか、あと集まりがありまして、そういったところに一生懸命出かけるうちに当然のことながら、知り合いが増えて、例えば仕事のチャンスにつながる場合もあると思いますし、あるいは自分の趣味、ゴルフでやりましょうという方も出てくるかもしれません。結局、それで初めて楽しいなという風に思いました是非ご検討を前向きにしていただければ大変嬉しいです。よろしくお願いします。

吉田会長：ゲスト・ビジターの紹介
　澤田邦風名取。今日はありがとうございます。プロのアートディレクターとして 20 年以上、企業ポスターやデザインを手掛けてらっしゃる方で、国内外で多数の賞を受賞している方です。本業で忙しい中、子供の頃に偶然聞いた津軽三味線の音色が忘れられず、思い立って 33 歳の時に澤田かつくに師匠に入門したという、私にとっても、非常に共感できる入門までのいきさつだと思います。40 歳で名取の免除を取得し澤田邦風さんを襲名されました。10 年間にわたって澤田流の伝統的な津軽三味線の普及に取り組みながら、ライブコンサートでもやりながらですが、またライフワークとして、高齢者施設での演奏や、病院や学校、100 か所以上、訪問演奏という活動をされていらっしゃいます。今日、この後、よろしくお願いいたそのお手伝い、金原さんが秘書です。
今日はよろしくお願いします。
　続きまして玉木みどりさんです。市兵衛町ギャラリーオーナーさんです。私の広告写真の仕事で大変お世話になった元広告代理店のプロデューサーです。その後、ご自身でギャラリーを始めて、写真家を中心とした多くの作家さんの写真集を手掛けていらっしゃいます。本日の澤田さんをご紹介いただいたのも、玉木さんです。あの仕事のないところでも非常にお世話になっておりまして、私が困っている時に「どうしてるの」と、タイミングよく連絡してくださる友人です。今日はいつも T シャツ姿しか見たことのないといった、私のこの姿に驚いていらっしゃいました。今日はありがとうございます。
　つだゆみさん、ですね。今日はありがとうございます。
津田さんは、漫画家さんでいらっしゃいます。歴史人物、ビジネス雑学などを、漫画でわかりやすく面白く伝えるような、スタイルの漫画の作家さんです。
で、あの代表作は、「わかる古事記」、「わかる日本書記」。おそらく聞いたことあるのではないかと思うのですが、その他 70 冊ぐらいのあの出版をされている方です。現在、神話から読み取る日本人の神髄、これを、漫画を通して伝える活動を始めてらっしゃいまして、神話マニア Labo というオンラインサロンを主催して、日本人が知らない深い精神性の根っこに刻まれた日本の始まりを漫画で描こうと月に 1 回の著名な方などをゲストに呼んで開催しております。
今日はありがとうございました。
　それと竹本さん。桑原さんの日銀時代の同期でいらっしゃいます。
竹本治様：竹本でございます。
いつもお招きいただきましてありがとうございます。先日はこちらでの講演会に参加させていただき本当に勉強になりました。ありがとうございます。桑原さんとは日本銀行でご一緒し、50 歳で神奈川県の知事に誘われて、神奈川県庁で 8 年間局長やらせていただき、リサーチ関係、政策研究関係局長をやりまして 1 年前に退職してフリーナランスとして、今、ソーシャルココモンズっていう名前でやっております。あの先程、つださんが、分かりやすく漫画に伝えるということをされてるとお伺いしましたけど、私の方は、文字で伝えるということで、何でもそういう形で論点整理をさせていただいております。どうぞよろしくお願いします。ちょうど 1 周年を迎えました。皆さんありがとうございました。
今日は友人の近藤保彦さんをご紹介いたします。近藤さんは高校時代からの友人で、クラスも一緒でそれ以来仲良くさせていただいています。桑原さんから会員をぜひ紹介してほしいと言われましたけど、実はもう会に入っていらっしゃり大変申し訳ないですね。今日はメーキアップにお越しいただきました。非常にあの活動的でバイタリティー溢れる素晴らしい方です。どうぞ、よろしくお願いいたします。
　近藤保彦様：竹本さんとは刈谷高校、愛知県の刈谷市でご一緒し、それこそ 40 年以上とお付き合いです。今は GINZA SIX のリーテルマネージメントの社長をさせていただいております。現在銀座ロータリークラブに入っており3つ目のロータリーで、奉仕は貴重だと思います。丸の内ロータリークラブは本当に特徴的なクラブだと思いまして感心しております。今日はありがとうございます。
　吉田会長：伊藤さん大変失礼いたしました。
あの本日はオンラインでの参加のあの方がいらっしゃいます。普段の例会でもオンラインでの参加というのもできるようになっております。どこに行っても参加できますという風なことで非常に好評をものです。どうぞ、よろしくお願いいたします。伊藤さん、ありがとうございます。大変失礼いたしました。
　伊藤孝夫様：プルデンシャル生命保険会社、シニアライフプランナーの伊藤孝夫と申します。
ありがとうございます。宜しくお願い致します。

吉田会長：私ですが、現代美術作家でフォトグラファーです。広告の写真家としての活動もしています。一方で、現代アートの写真の作品を作ってきました。その作品、何かに作らされているかもしれないと思えるほど、バックストーリーがあるとつい最近気付いてきました。しばらく休んでいたのですがこれを再開したいと決断したばかりでございます。ニューヨークと行き来する生活を続けましたが、このコロナで帰れなくなってしまい写真家になる前にやっていたディスプレーデザインを主軸としたデザインの事業と写真と映像のプロダクションをつなげた事業、それと若手クリエーターを育成するマネージメント事業などを行っております。それに加えて、昨年は BFF という別の会社を立ち上げまして、led ビジョンの販売、映像コンテンツの方を手掛けることを始めまして、これまでの経験してきたものを全部ひとまとめにして色々やっていければ、もっとたくさんの社会貢献ができるのではないかと思って、進めてきております。そして、この丸の内クラブは入会と同時に、コロナ会食の啓発ショートフィルムというのを制作させていただける機会をいただきました。どんなところでも経験はその応用を生かせる，そして貢献できるのだというのを実感いたしましたで、まさかこうして会長という大役を仰せつかることになることは夢にも思ってなかったのですが私にとっての必要なステージを会員のメンバーの皆様がご用意してくださっ

たのかなあと、今、感謝をしております。で、そのように、私がこの丸の内ロータリークラブで活動から学んできたということは、自分ができることを、奉仕していくと、じわじわと強く喜びの感触を味わえるようになるのだということでした。
よろしくお願い致します。

9.

【卓話】

津軽三味線 名取
さ わ だ　く に か ぜ
澤田 邦風 様
「三味線の音色と心の話」

【プロフィール】

津軽三味線の音色や奥深さに魅了され 40 歳で澤田流津軽三味線の名取となり演奏活動を始める。大久保津軽三味線教室で講師として澤田流の伝統的な津軽味線の普及に取り組みながら演奏会、コンサート、ライブ、セミナーなど東京、埼玉、千葉、愛知、京都など全国で演奏活動している。一方で高齢者施設での演奏、病院や、学校での演奏もライフワークとして引き受け、100 箇所以上の施設で現在も訪問演奏を続けている。津軽三味線世界大会　1 位　優勝(ミドル C 級)

津軽三味線世界大会 3位入賞　(ミドル C 級)

津軽三味線金木大会　4 位入賞 (C 級)

(https://kunikaze.Jimdofree.com プロフィール-邦風ホームページを参照いたしました

卓話　【議事録 別紙参照】

10. 今後の予定　　吉田　秀樹　会長

吉田会長:澤田邦風名取、本当に感動的な演奏とお話をありがとうございました。まさに私が非常に勉強させられた卓話だったと思います。次回ですが、HIKARI さんの卓話があります。酒巻さんがいらっしゃいます。そして 9 月 7 日はクラブ協議会になります。

8 月 24 日 第 106 回例会	通常例会 卓話:HIKARI　酒巻様
9 月　7 日 第 107 回例会	クラブ協議会 ガバナー補佐訪問

11. 閉会点鐘　　吉田　秀樹　会長

12. 写真撮影

◇◆四つのテスト◆◇

1. 真実かどうか

2.みんなに公平か

3.好意と友情を深めるか

4.みんなのためになるかどうか

【卓話議事録】

津軽三味線 名取
澤田 邦風 様
（さわだ くにかぜ）
「三味線の音色と心の話」

皆様、初めまして。津軽三味線を演奏しています澤田邦風と申します。今日は東京丸の内ロータリークラブのこんな素敵な会に呼んでいただいてありがとうございます。短い時間ですが、一生懸命演奏してお話ししたいと思いますので、どうぞお付き合いいただければと思います。よろしくお願いいたします。

私は三味線を演奏している澤田邦風です。
津軽三味線というと聞きなれない方もいらっしゃると思います。今日は、ほんの少しだけ津軽三味線について詳しくなってけただければ嬉しいと思っております。そして、今日は三味線の色と心の話ということで三味線を演奏するというのは、音を奏でるだけではなく、心と心をつなぐ、そんな作業だと思っております。私自身の経験を踏まえて、ちょっとそのことについてお話しする時間で時間を作りたいと思って、ここに来させていただきました。いきなりこうして、三味線の話を始めると、よく質問を聞くのが、三味線って子供の頃からやられているのですよね、とよく聞かれます。家がそういうおうちだったのですかというのもよく聞かれます。青森出身ですかというのもよく聞かれます。
ギターとかいろんな楽器を小さい頃から嗜んできた、そういう質問も受けます。実は私は子供の頃からやっていなくて、やり始めたのは 33 歳からです。
かなり大人になってからです。そして、青森出身かと聞かれるのですが、残念ながら、青森ではく愛知県出身です。先ほどの愛知県のお話がありましたが、私も愛知県で名古屋弁で喋っていた子供でした。そして、ギターとか音楽とかよくやっていましたかって言われるのですが、音楽経験は 33 歳まで全くなくて、子供の頃の音楽の成績は大体 5 段階の2か 3 ぐらいの感じでした。楽譜も読めなくて、音感もなくて、とにかくリズム感が悪いという風に言われて、音を楽しむどころか、音楽が嫌になっているとこでした。その私がなぜ津軽三味線と出会いこうして皆様の前で弾いているのか、そんなお話も今日できたらいいな、と思っております。

まずは、津軽三味線についてちょっと解説させていただきます。津軽三味線というのは、青森県津軽地方で生まれた楽器になります。青森県津軽地方というのは、雪国という風にも言われたりします。冬は 3 メートル、4 メートル、5 メートル、雪が降り積もる、本当に寒い地方です。そんな場所で生まれた三味線が、津軽三味線と言われています。目の見えないボサマと呼ばれる人たちが生きるために、門付けと言って、家の前で演奏したのが始まりです。
食べ物を恵んでください。そしてお金を恵んでください。そんな思いで弾いた三味線、それが津軽三味線なので、どこかその音色は切なく、はかなく、そして生きる力に溢れた力強さがあるという風に私は思っております。糸は 3 本しかありません。これは普通の三味線と同じです。太い糸と細いと中くらいの糸、この 3 本だけで演奏します。
どんな音がするか、ちょっと弾いてみますね。えっと、まず太い糸から引いてきます。
太い糸はこんな音がします。そして細い糸はこんな音がします。
そして中ぐらいの糸、中ぐらいの太さの糸はそれぞれ糸の太さが違うので微妙に音色が違います。ただ、糸は 3 本しかありません。この現代にあって、3 本の糸を張っただけの、こんなシンプルな質素な楽器です。今、スマホでさえも、小さくても写真も撮れたり、カメラも撮れたり、映像も取れたり、メールもできたりするのですが、この楽器はほんとに 3 本だけ張っただけなので、何もできません。音を奏でるしかできません。よく演奏に行くと、3 本しか糸がないので、いろんな表現は難しいですよね、という風に聞かれます。
3 本しかないので、できることは限られます。でも、左手を一生懸命動かすこと、右手を一生懸命振ること、そして心を込めること。この 3 つがあれば、色んな表現ができる。そんなふうに思ってお答えしております。

三味線との出会いは中学生の時です。全く三味線に縁もゆかりもなかった私が、初めて出会ったのは、中学生の時でした。たまたま、こっそり入った兄貴、6 歳離れた兄がいるのですが、兄の部屋で見つけたものが出会いでした。今日ちょっと持ってきたので、
これです。「夢の祭り」という津軽三味線の映画がたまたま兄のところに、レンタルビデオとして置いてありました
実はもう 1 本あって、あぶないデカ、というのもあって、柴田恭兵さんがたまたま主演していた「夢の祭り」という映画、この 2 本が置いてありました。これを見かけた僕は、早速こっそり兄の部屋にビデオかけます。この中で出てきたのは、津軽三味線弾きと若者たちの映画でした。大会を目指す若者たちが一生懸命三味線を弾く。そんな青森の映画でした。
これを見て私は衝撃を受けました。こんな激しい音がするのだ、こんな力強い音がするのだ。そしてこんな繊細な音が出るのだ。正直、音を聞いた時に電流が走ったかのように、びっくりしました。そして、何よりも驚いたのがそのスピーディーさです。激しさ。
日本の楽器って、どこかゆったりしているイメージがあったのですが、とても激しい音色でした。その兄の部屋聞こえてきた曲は、ビデオから聞こえてきた曲はよされ節という曲だったということに後で気づきます。こんな曲です。

三味線で、もっと穏やかな曲だと思っていたのに、こんなに叩きつけるような音を出すのだ。兄の部屋で衝撃を受けた私は、これを習いたい。これを弾いてみたい。これをどこかで生で聞きたい。そう思って、家の親に聞きます。津軽三味線というのを見たのだけど、どこかで習えないか、どこかで教えてもらえないかなあ、そう思って聞いたんですが、愛知県の実家ですね、津軽三味線の“つ“文字も、もちろん知らず、津軽三味線っていうのは、そういう家じゃないと教えてもらえないのではないか、もしくは青森に住んでないと習えないのではないか、そういう風に言われました。そういうものなのだと思って、中学生の時は諦めてしまいまし

た。そして、私は津軽三味線、その映画を見たきり、聞くことはなく、そして教室を探すことも当時はできず、そのまま高校に行き、大学に行き、デザインという道にたどり着きます。絵を描くことも元々好きだったので、絵を描く方に進み、デザインの道に行き、そして広告の世界に飛び込みます。アートディレクターとしていろんな仕事をしました。たくさんのポスターを作ったり、たくさんの絵、動画を作ったり、色々やりました。広告の世界は忙しくてほんとに夜どおし仕事したり、朝方まで仕事したり、いろんな人と会ったり、出張に行ったり、本当に忙しかったです。目まぐるしいというのが、本当に似合う世界で、もうほんとに目まぐるしくなっていて、思考能力もなくなって、忙しいっていうのは、ちょっと心をなくすという方もいるのですが、ほんとにその状態になっていました。帰る時、明け方に、仕事が終わってからふらふらと出張した場所でふらふら歩いていたのです。ちょっと疲れていたのですかね。遠くから風が吹いてきて、その時になんかこんな音が聞こえてきたのです。カンカンカンカンカンカンって音が聞こえてきて、なんだろうと思ってその音のする方を見てみたら、電車が走ってきて、それ踏み切りだったのです。でも、最初踏み切りの音っていうのがわからなくて、あれ、どこかで聞いた音色、どこかで感動した音色だと思いました。津軽三味線の、あの時、兄の部屋で見たビデオの音と思ったのです。ちょっと疲れていたのかもしれません。その音を聞いた瞬間にわっとまた体に電流が走って、仕事をもしていたのですが、すぐにやっぱり津軽三味線の世界に行きたい、津軽三味線を習いたい、そう思ったのが 33 歳の春でした。
そう思った私はまた教室を探して諦めるのではなくて、自分で一生懸命探そう。そう思って、探してたどり着いたのが、大久保にある津軽三味線教室でした。そこは澤田勝邦、今の師匠がいてですね、師匠がたまたまインターネットを始めたところで、そのインターネットのホームページに私がたどり着きました。津軽三味線を習いたいのですが、教えてもらえませんか。ちなみに、音感は全くないです。音楽経験はないですという風に、師匠に電話しました。1 回来てみたらって、いう風に言われました。33 歳の春、大久保にある教室に 1 人で訪ねて行きました。

実際行ってみると、緊張しました。ビルの 3 階にある教室なのですが、1 回上り、2 回上っている間にどんどん、どんどん、本当にできるのかな。音感ないし、楽器やったことないのにできるのかな、行ってみたいけど、もう全然才能ないから帰れと言われるのかな。そんなことを思いながら階段を上っていったのです。3 階の教室のドアの前にたどり着きました。そしたら、教室の中から音が聞こえてきました。澤田勝邦師匠の音でした。
その音は、青森県津地方の寒い冬から春に移り変わってくような雪が溶けて花が咲き、鳥が舞い、蝶が舞い、花が咲き乱れるような冬から春への移り変わりを感じるような曲でした。その音色が私が 2 度目に感動した三味線の音色です。「津軽あいや節」を即興で弾いていたそうです。これがドアの前で聞こえてきた音になります。
この「あいや節」をドアの前で聞いた時、不安だった僕の気持ちが溶けていくような、そして急に春に向かうような、何かそこには、新しい人生が待っているような、そんな音に感じました。そして、夢中で、ドアを開けて師匠に弟子入りさせてくださいというふうにお願いしたのが、33 歳になります。ドアを開けるなり、すぐドアを開けて弟子入りさせてくださいって言ったのはお前だけだと、未だ笑われておりますが、それぐらい音に魅了されました。
それが、2 回目に聞いた津軽三味線の音でした。ここから師匠に入門するのですが、そこからは津軽三味線を覚えていくのは、なかなか大変でした。まずは目の見えない方が弾いていた楽器なので楽譜がありません。音感もリズム感もないので、楽譜がないのは本当に大変でした。耳で聞いて指で覚える。その繰り返しでした。耳コピーという風に言っています。そして、新しい曲を次々に覚える。そして簡単な曲だけじゃなくて難しい複雑な曲を覚えながら、自分らしい音色を作っていく。音を音色に変えていく。私はデザインの仕事をしていたので、音色という言葉にびっくりしました。音に色を付けていく。音に心を込めていけば、音色に変わる。それは初めて聞く言葉でした。

仕事をしながら、一生懸命曲を覚えます。通勤時間はイヤホンを当てて、四六時中、聞く、つり革につかまった時にはつり革を三味線代わりにして指を動かす。うちわを持ったら撥(ばち)と思ってずっと振り続ける。そんなこともしました。朝 5 時に起きて公園に行って練習したこともあれば、夜中帰ってきてそのまま、高速道路の下に行って 1 人で聞いたこともありました。ある時は、おばあちゃんに食べるのが大変なのって、話しかけられたりもしましたが、一生懸命練習しているのですと答えると、おばあちゃんがその場で民謡を歌ってくれたりもしました。青森の方だったようです。そんなふうに一生懸命練習しながら、なんとか曲を覚え、試験を受け、澤田勝秋という家元の前で緊張しながら試験を受け、何曲も聞き、そして名取として認められたのが、7 年後の、40 歳の時になります。澤田勝邦という師匠の名前から邦という一文字をもらい、澤田流の澤田という名字をもらい、そこに、あの時感じた風、踏み切りの音が聞こえてきた時の風の一字を当てて、澤田邦風という名前にしました。そこからは、コンサートやライブ、イベントの出演、そしてえ、国際交流の舞台、大使館の方の前、いろんなところで演奏させていただきました。演奏がどんどん広がっていきました。海外の方から依頼が増えるようになりました。
実は英語全然できなくて、最初は迷惑メールだと思って、忘れていったのが実は全部演奏依頼で、そこからちゃんと返すようになったのですが、そして詳しい方にメールを見てもらい、返信するようになってから増えてきたのが、海外の方から弾いてほしいという、
演奏依頼です。津軽三味線を聞きたい、本場の津軽三味線の歌を、海外でも聞いてみたい。インターネットをどうしてでも聞いてみたい、そんな方たちが増えてきたので、この頃、その方たちのリクエストに応えて作った曲があります。
spirit という曲になります。
この曲、実は夜中に 1 人で作ったオリジナル曲になります。英語でタイトルをつけましたが、精神、心、魂、そんなに意味合いでつけた曲になります。
日本人の心、津軽三味線の精神は文化の魂。そういうものが海外の人に伝わればいいなと思って作った曲になります。今日は日本の皆さんの前で引いてみたいと思います。お聞きください。オリジナル曲、澤田邦風、スピリットです。よろしくお願いします。

ありがとうございます。スピリットという曲をお聞きいただきました。この曲は 1 人で夜中に作った曲になりますが、今ではいろんな人が演奏したいということで、ザ・スピリットという大合奏曲に生まれ変わっております。流派も、国籍も超えて、いろんな人が弾ける曲になっていくといいな、という風に思っております。今日は初心に帰って 1 人で弾かせていただきました。こうして、スピリットという曲を作り、いろん

なところで演奏活動を広げていった私なのですが、今度はですね、逆に、演奏活動が広がりすぎて、大変なことになっていきます。演奏から演奏のはしご、そしてまた演奏。今度はその合間に仕事っていう感じで、仕事がありながら、演奏がどんどん忙しくなっていきます。演奏が忙しくなると、また同じことが起こります。忙しいと書いて、心をなくすと書くように、どんどんどんどん演奏することだけに夢中になって、心を忘れていった頃だと思います。もっと心に触れる活動がしたい。もっと数を減らしてでも、じっくり誰かと向き合って演奏したい。そう思っていたら、先にある学校の先生から連絡が入りました。葛飾区の学校の先生でした邦風さん、演奏活動をインターネットでお見かけしました。うちの学校で弾いていていただけませんか。子供たちのために、という連絡でした。私でよければ、是非ということで詳しい話をお伺いすることにしました。
うちの生徒は、みんな目が見えないのですと、おっしゃっていました。葛飾区の盲学校というところでした。その盲学校で子供たちの前で津軽三味線を 1 時間弾いてほしいのです。お願いします。と言われて、ありがたいお話だったので、引き受けることにしました。
いつも通りやればいいのかな、と思って、当時演奏も慣れてきていたので、いつも通りやれば喜んでもらえるかな、と思って行ったのですが、当日が近づいてきて、緊張してしまいました。なぜかと言うとですねえ。目の見えない子供たち、その子供たちの前でやるっていうのは、やり方を変えないと伝わらないのだ、ということに直前になって気がつきました
先生に電話をして、どんな服装で行けばいいですか、という風にお尋ねしたところ、「みんな目が見えないので、視力が弱いので、どんな服装でもいいです。ジャージでもいいですよ、邦風さん」と言われたのですが、一応、気持ちを引き締めるため、子供たちにもちゃんとした演奏を聞かせるという、自分のために、着物をこうして着ていきました。
当日、たくさんの子供たちがいる体育館のようなところに通されて、着物で緊張しながら近づいていくと、「あっ、誰か来た」と子供の 1 人が言いました。
気づくのだなということを感じながら、そのままステージの方に近づこうとすると、あれなんか変な服、着ているよって言ったのです。びっくりしました。目が見えないと聞いていたお子さんたちなのですが、まるで目が見えるかのように、私が見えているかのように言葉を発します。「なんかスカートみたいなの、履いているよ」って言うのですね。何のことかと思ったら、この袴、この袴をこする音が、学校の先生の着ている男性の先生が着ているスボンとは違うように聞こえたようです。それぐらい、聴覚の鋭い子たちの前で何を弾こうか、当日焦りました。「スピリット」も弾きました。「あいや節」しも弾きました。いろんな曲を弾きました。
最後の 2 曲ぐらいになった時に、ふと、この子供たちのためにこういう曲じゃなくてもっと違う曲を弾いてみたい。そんなふうに急に思いました。花メドレーというのを急遽やってみることにしました。目の見えない子供たち、その子供たちの心に綺麗な花が見えるといいな。そして心の中に、ぱっと、あたたかい花が咲くといいな。そんなふうに思いました。花にまつわる 3 曲をメドレーにして、急遽やって見ることにしました。早いテクニックも大きな音も使わず、シンプルな 3 本の糸だけで心を伝えてみよう。そう思った初めての演奏になります。その時に弾いた花メドレーという曲を今日ちょっと弾いてみたいと思います、お聞きください。花メドレーです。

この花メドレーを弾き終えて、目を開けるのが怖かったのです。こんなシンプルな曲、こんな静かな曲、子供たちがどう思うのだろう、ずっと待っていました。どんな反応があるのかなと思ったら、しばらくして 1 番前にいた女の子がこう言ってくれました。「邦風さん、三味線っていいね」って、言ってくれました。その隣にいた男の子が急にこう言いました。「邦風さん、花が見えました」って言ってくれました。
目が見えないと聞いていたお子さんたちが、一生懸命聞いてくれて、緊張しながら聞いている私の心を感じて、言葉にしてくれました。

綺麗な花が見えたその言葉が嬉しくて。子供たちに、三味線を弾くっていうのは、心を込めることなのだ。心を伝えることなのだ。そして子供たちは心で感じ取って、それを言葉にしてくれている、そんなふうに感じました。
その演奏以来、私は三味線の演奏、一生懸命心を込めていこうという風に思いました。感動して。帰る時に子供たちがこう言ってくれました。「邦風さん、今日はありがとう。1 時間楽しかった。僕らのお礼の演奏を聞いてほしい」というふうに言われました。
恒例の演奏と言ってですね。さっき、あの話していた男の子が立ち上がって、女の子も立ち上がって、その 2 人がエレクトーンに向かって即興で演奏を始めてくれました。
その即興の演奏が本当に心を打つっていうのは、こういう演奏なのだ。
心を打つというのは、こういうことなのだ。演奏っていうのはこういうことなのだ。そういうことを子どもたちから学ばせてもらったのが、葛飾区の盲学校の演奏になります。それ以来、心っていうのはあるのだな。心を大事にしなければと思ったのがこの盲学校の経験になります。その後、私はいろんなところで依頼を受けるたびに一生懸命演奏するようになります。

次に受けたのは、余命何ヶ月という方が集まるホスピスというところでした。そこで演奏してください。余命何か月の方々です。この演奏が最後の記憶になるかもしれません。そう言われて、緊張しないわけはないのですが、緊張しても失敗しても一生懸命弾こう、そう思わせてくれたのもそのホスピスの演奏です。そして、老人ホーム、おじいちゃん、おばあちゃんにリクエストを聞いてその演奏に応えていく、おじいちゃん、おばあちゃんの心に触れていく。それを繰り返していくうちに、1 件だった老人ホームからまた違うところ、そして今では 100 か所以上の老人ホームからお声がけいただいています。東京、名古屋、千葉、埼玉、いろんなところに行っていますが、どこに行っても心を込めて、心と会話する、そんな気持ちでやっております。精神病院というところも行きました。もし聞いている途中に何か怖いことがあったら、邦風さん逃げてくださいとて言われたのですが、そんなことは何もありませんでした。むしろ、拍手してくれて感想をその場その場で言ってくれる人たちでした。心をこの 3 本の糸を通して伝えていけるのだな。そして感じていけるのだな。そんなことを感じさせてくれたのがこの三味線と演奏活動になります。
私は糸としてこれからの心を伝えていきたいと思います。糸と糸が人をつなぐ、心をつなぐ三味線が心を教えてくれる。そんなふうに思っております。今日、短い時間でしたが、皆さんとこうして三味線の糸を通じてお話できたこと、聞いていただけたことを嬉しく思います。今日最後に心を込めて、今日の三味線の色と心の話の最後は、音で伝えたい、と思います。皆さんへの感謝とありがとうございますという気持ちと、これからも心を大事にしていきますという気持ち。その決意表現として、津軽じょんがら節を最後に

弾ききたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

ありがとうございます。
こうして、私は心を大事にして演奏活動をしております。一生懸命、今も演奏活動をしております。今日は皆さんにお会いできて嬉しかったです。最後に 1 つだけエピソードを紹介して終わりにしたいと思います。先日ある老人ホームを訪れ帰ろうとした時に壁を見ると、1 枚のポスターが貼ってありました。そのポスターは、国風さん、今日はありがとうございましたって手書きで書かれていて、そこにお花の形を振り抜いたメッセージカードがいっぱい貼ってありました。帰りにそのメッセージカードを 1 枚、1 枚よく見てみると、今後弾いてほしい曲。そしてこんな話が面白かった。また来てほしい。そしてこんなことをまたやってほしい。そんなメッセージがいっぱい書いてありました。お孫さんの結婚式で演奏してほしいというのもありました。そのメッセージカードを 1 枚、1 枚読んでいたら、心がじんと熱くなって、また私の心が震えました。広告で、ポスターをいっぱい作ってきた私なのですが、その手紙のポスターは全くおしゃれでもなく洗練されてもいなく、むしろほんとに手書きで、プロが作ったものではないポスターなのですが、心をじんと打たれました。やっぱり心を込めるっていうのは大事なのだな。ポスターも、広告の製作も心を込めて、これからもやっていこう。演奏も心を込めてやっていこう。そう思うことが先日ありました。この話を、最後の皆様にさせていただき、これからも心を大事に頑張っていこうと思います。今日はほんとに皆さんありがとうございました。